



日行門教育委員会蔵

## 荘田平五郎没後100年プロジェクト

### 平五郎紀行—その3

# 東京—開花の風景

明治2年(1869)－この年は日本が大きく動いた時代でした。戊辰戦争が終わり、版籍奉還によって日本各地の「藩」が所有していた土地と人民の支配権が、新たな政府に返還され、260年間にわたった幕藩体制が事実上終わりを告げました。そんな中で荘田平五郎は英学を続けるべく、白杵から学問の中心地となった「東京」へ向かいます。

横浜に着いた平五郎は、頭上にめぐらされる「電信線」に、わずか2年で政治体制だけでなく、日本の文明が大きく進化していくことを実感します。そして、その足で白杵藩下屋敷(現:港区麻布)に向かい、東京での英学修行先を相談しますが、なかなか見つかりません。そこで平五郎は青地塾と一緒に学んだ阿部泰蔵と亀戸天神(現:江東区亀戸)に梅を見に行き、阿部に相談してみました。

青地塾時代はともに大酒を飲んで遊んでいた阿部が、ほんの2年で人格高潔な紳士の雰囲気をも身に付けていたことに、平五郎は大変驚きます。そして阿部は、この人格も教養も優れた「紳士」を育成することが、慶應義塾の新たな方針であることを告げ、平五郎を慶應義塾へと誘いました。平五郎は人を変える教育の力に感銘を受け、慶應義塾の門を叩いたのでした。

慶應義塾の塾頭、福沢諭吉から「学問(英語)もそろばん(経理)も、荘田は二つながらできる」とその才を認められた平五郎は、明治8年(1875)に三菱商会に入社し、企業三菱の世界に通用する近代化のため、半生をささげることになります。2度目の東京は、平五郎を世界に通用する紳士としての企業人という、大輪の花として咲かせたのです。

#### ※参考文献

宿利重一著 『荘田平五郎』 対胸社 1932(絶版)

明治生命編 『阿部泰蔵伝 本邦生命保険創業者』 明治生命保険相互会社 1971(絶版)

問合せ先 文化・文化財課(内3120・白杵庁舎)